

## 1 つぎの文章を読んで問題に答えましょう。

アリは、小さな体をしています。とてもよく働く生き物です。

公園や道はたで地面をよく見ると、黒い小さな点が動いているのに気づくことがあります。

それがアリです。アリたちは、すのなかまといっしょにくらし、毎日いそがしく動いています。

朝になると、すにすむアリたちは、少しずつ外に出てきます。

まだ空気がすずしいうちから、えさをさがす仕事が始まります。

地面の上をよく見ると、同じ道を行ったり来たりしているアリの行列を見ることがあります。

これは、えさのある場所とすの間を、何度も行き来しているからです。

えさをさがすアリは、地面に落ちているパンくずや、あまい物のかけらなどを見つけ、ときには、虫の死がいや、小さな木の実のかけらを運んでいることもあります。

一ぴきでは運べないときは、ほかのアリをさそって、いっしょに運びます。

アリたちは、体の大きさにくらべて、ずっと重い物を運ぶことができます。

行列になってえさを運ぶようすは、まるで小さな引っこしのようです。

昼ごろになると、外はあたたかくなり、アリの動きもさらにさかんになります。

えさを運ぶアリ、すの入り口をととのえるアリ、まわりを見回るアリなど、いろいろな仕事をするアリがいます。

それぞれのアリが、自分の役わりをはたしているのです。

そのおかげで、すの中では、たくさんのアリが安心してくらすことができます。

なかまどうしで力を合わせているところが、アリのすごいところです。

夕方になると、外のようなすは少しずつ変わってきます。

日ざしが弱くなり、風もすずしく感じられるようになります。

えさを運んでいたアリたちも、すに帰るじゅんびを始めます。

道の上の行列はだんだん少なくなり、すのまわりはすずかになっていきます。

それでも、さいごまでえさを運ぶアリのすがたが見られることもあります。

夜になると、アリたちの動きは、昼よりもおだやかになり、すの中では、つぎの日の仕事にそなえて、体を休めているアリもいます。

また、すの中をととのえたり、なかまのようすをたしかめたりしているアリもいます。

このように、アリは一日中、なかまと協力しながら生活しています。

小さな体でも、力を合わせて働くことで、すのくらしをささえているのです。





(1) アリが朝になって外に出てすることとして、文章の内容に最も合っているものを選びましょう。

- ① つぎの日にそなえるため、すの中で仕事のじゅうんびをする
- ② まだすずしいうちから、えさをさがしに行き、すてえさのある場所を歩き来すること
- ③ すを広げるために、すのまわりの土をくずすこと
- ④ まわりをあまり気にせず歩き回り、えさがあれば運ぶこと

(2) つぎの文は、文章の内容と合っていますか。正しいものには「○」、ちがっているものには「×」を書きまじょう。

- ( ) ○ ( ) アリは、一びきでは運べないえさを見つけたと、ほかのアリをさそって運ぶと書いてある。
- ( ) × ( ) 昼ごろになると、アリの動きは少なくなると書いてある。
- ( ) ○ ( ) 夕方になると、えさを運ぶアリの行列は少なくなっていくと書いてある。

(3) つぎの出来事を、文章の流れに合うように正しい順番に並べまじょう。

- ① 夜になり、すの中で体を休めるアリがいる。
- ② 朝になり、えさをさがしに外へ出る。
- ③ 昼ごろ、いろいろな仕事をするアリが見られる。
- ④ 夕方、えさを運ぶ行列が少なくなる。



(4) アリは、なぜ行列になってえさを運ぶことがあるのですか。本文の内容に合わせて三十五字以内で書きまじょう。

解答例  
一びきでは運べないえさを、なかまといっしょに運ぶため。

(5) 文章では、「なかまごうしで力を合わせているところが、アリのすこいところですよ」とあります。なぜ、そう言えるのか、文章の内容をもとに書きまじょう。

解答例  
それぞれ役割を分けて働き、なかまと力を合わせてすのくらしをさせているから。

(6) この文章で、筆者がいちばん伝えたいこととして、文章全体の内容に最も合っているものを選びまじょう。

- ① アリは、昼のあたたかい時間に活動の中心があり、夜はほとんど休む生きものだといい
- ② アリは、体のわりに重い物を運ぶが、えさを運ぶは一びきで行うことが多いということ
- ③ アリは、朝から夜まで、役わりを分けてなかまと協力し、すのくらしをさせようといいうこと
- ④ アリは、夕方になると行列が少なくなり、夜は動きが見られなくなるといいうこと